令和5年度多摩区大学地域連携事業

身近にある森の自然探検ワークショップ開催

日本女子大学社会連携教育センター

子育てサイエンス・ラボ

担当：家政学部 児童学科 教授 請川滋大, 准教授 安藤朗子

活動の概要（1）

【事業の目的】

身近な自然や生き物に親しむことは、子どもの健全育成に役に立つことですが、ICT革新がめざましく進んでいる現代社会においては、自然との楽しみ方がわからない大人や子どもが増えています。

身近な自然の楽しみ方、自然観察法等について、まずは大学生や教員が学ぶとともに、たまっ子やその保護者たちに伝え広める活動を行うことを目的に活動を行いました。

活動の概要（2）

【事業の内容】

日本女子大学西生田キャンパス内の森で、地域の親子（7組）を招いて自然体験ワークショップを開催しました。

ワークショップ開催にむけて、プロ・ナチュラリスト佐々木洋氏を講師に招き、まずは学生・教員が自然体験授業を受け、その後地域の親子と一緒に自然体験ワークショップを行いました。

参加スタッフ

【ボランティア学生10名】

大学院生：齊藤花奈・中里啓子・永島さくら

学部生：村石貴咲・畠山未来・大杉恵理佳・水口夢結

森田陽菜・木戸美里・米田琴音

【教員】

家政学部 児童学科：請川滋大 ・ 安藤朗子

人間社会学部 心理学科：麦谷綾子

【講師】

プロ・ナチュラリスト：佐々木　洋

活動スケージュール

①学生募集と活動計画

事業の説明会を開催し、学生募集

活動計画の作成

②事前準備

７月25日　森の下見（講師と教職員のみ）
９月17日　事前準備①
10月29日 事前準備②

③ワークショップ開催

11月３日（祝）
日本女子大学西生田キャンパス内の森にて

地域の小学生の親子を招いての自然体験
ワークショップ開催

④活動の振り返り

リーフレット・報告書作成

リーフレット班、事前準備班、
当日イベント班に分かれて
作業実施

事前準備について

発表者:米田琴音

事前準備
1日目
（9月17日）

日本女子大学・西生田キャンパスの森を散策し、プロナチュラリストの佐々木洋さんに森に生息している動植物について講義をしてもらいました。

動植物についての知識を深めるとともに、子どもたちにどのように伝えたら良いのか、興味を持ってもらう方法を考えました。

1日目（9月17日）で学んだこと

アキアカネ

・「あかとんぼ」とも呼ばれる。

・夏の間は暑さが苦手なため、避暑地の山に行く。9.10月に帰ってくる。

・メスを惹きつけるためにオスは赤色をしている。

・メスは茶色である。

セミ

・鳴くのはオスである。

・9月17日はツクツクボウシの鳴き声が聞こえた。

セミが鳴くのはオス・メス
どっちでしょう！

実際に子どもたちに出題したクイズ

1日目（9月17日）で学んだこと

スギボックリ

子どもたちと
秋の詰め合わせづくり
したら面白そう！

いろんなところに
どんぐりなどが落ちている。
それを集めながら散策すると
より楽しめそう！

ジョロウグモ

・メスの方がオスよりも強い。

・逃げやすいようにお尻を上側にして
止まっている。

・縦糸は自分が歩くため粘らないが、
横糸はエサを採るため粘っている。

・鉄が糸と同じ細さになったとき、蜘蛛
の糸の方が鉄よりも強い。

1日目（9月17日）で学んだこと

アオキ

・幹が青いからアオキという名になった。

・葉っぱの表面を枝などで傷つけて文字などを書くと時間が経ったら、描いたものが濃くなる。これは葉っぱ自身がその部分を治そうとしたために起こる。

子どもたちにも是非体験してもらいたい！

1日目（9月17日）で学んだこと

サルノコシカケ

・触っても大丈夫。

・これは半分死んでいる木であり、死にかけたことによってキノコが生えた。

固くてびっくり！

事前準備
2日目
（10月29日）

一日目と同様、佐々木洋さんに森に生息している動植物について講義をしてもらいました。

イベント当日に実施する企画を佐々木さんと相談し合いながら当日の動きを確認しました。

2日目(10月29日)で学んだこと

エナガ

シマエナガの親戚

コオロギ

雄と雌の違いは産卵管の有無

モグラ

通り道が竜みたいに見えるから土竜

ヒイロタケ

毒はないけど食べられない

カワラタケ

カラスウリ

実際に割ると
どんな感じかな…？

2日目(10月29日)で学んだこと

ムカゴ

自然薯などのツルにできる

クサギ

葉っぱをちぎってみると

ピーナッツバターの匂いがする

ゴンズイ

シラヤマギク

子どもたちに興味をもってもらうために

- １０個に仕切られた箱を用意し、「森の宝箱」づくりをする
- 自然の動植物の説明には、具体的なエピソードを盛り込む
- クイズをつくって問いかける
- 自然採集の際の注意点を伝える
  （死骸や糞の扱い、虫の観察の仕方、キノコ類の扱い　等）

当日の動き

グループ分け → 採集 → 展示会

グループ名決め

一度集合し、今まで見つけたものの中から「グループ名」を子供たちに決めてもらう。

気になるものを拾う

グループごとに相談し合いながら木の実などを箱に詰めていく。

拾ったものを見る

それぞれのグループで拾ったものを展示し、佐々木さんの解説を交えながら交流する。

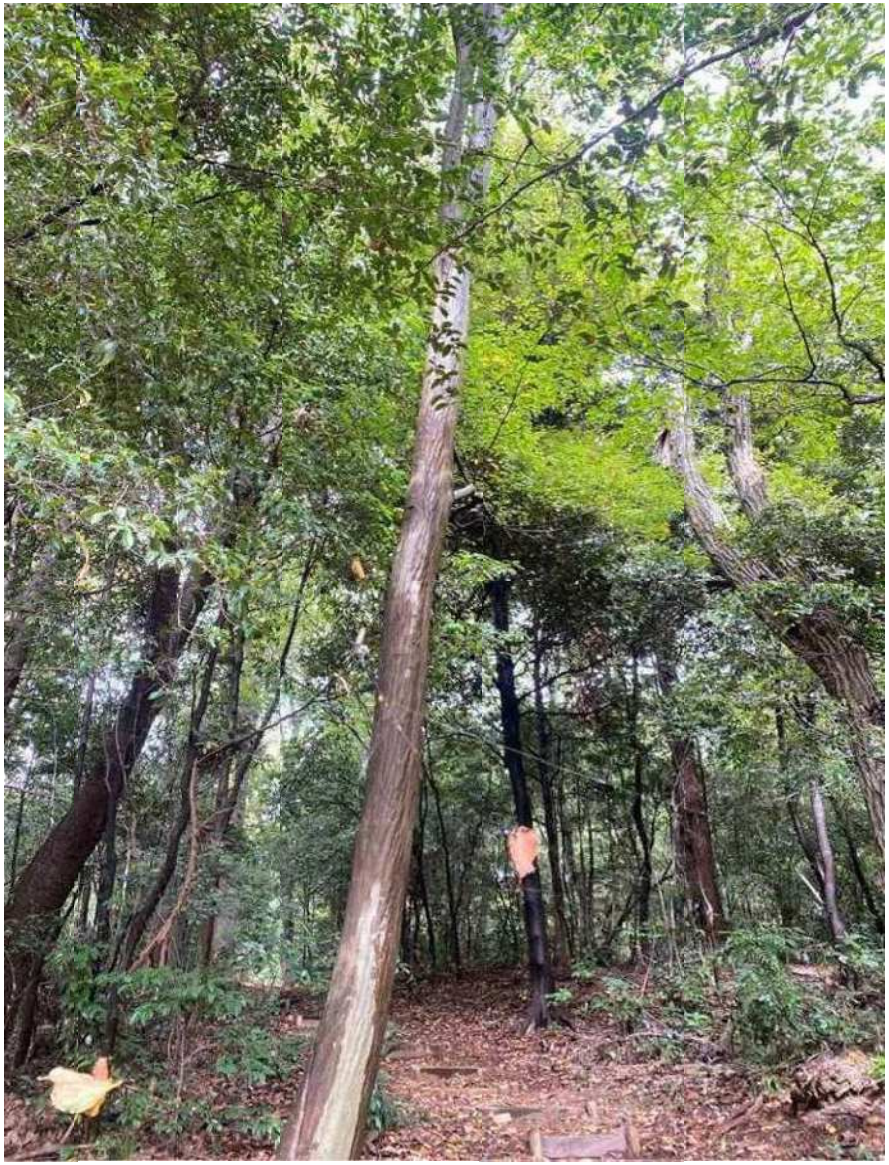
2023年11月3日実施

「身近にある森の自然体験ワークショップ」当日の様子

発表者

村石貴咲

木戸美里



ワークショップ当日の流れ

9:00 学生・職員 集合

9:30 参加者が集合、顔合わせ

10:00 西生田キャンパス森の散策開始

12:00 散策終了後、散策の振り返り会

12:30 参加者は解散、学生と職員で企画の振り返り

13:00 学生・職員 解散

ワークショップ当日の様子

参加者

多摩区在住の

小学生の親子7組

（14人）

グループ構成

3グループ（学生3人につき、2～3組の親子を担当）

先生

プロ・

ナチュラリスト

佐々木洋先生

散策のポイント

◆ 森の宝箱

森の散策をする際、「森の宝箱」を作成

10個に仕切られた透明の箱に、気に入った自然物を入れていく

→各グループに１つずつのため、数種類の木の実や葉、虫を話し合って選別することで、<u>より宝箱への思いが強く心に残るものとなった</u>

◆ 子どもたちが興味を持っていたもの

- アオキの文字書き
- カラスウリの粘り気
- クワガタや鳩の襲撃現場
- ジョロウグモの秘密

自然の
摂理を知る

イベント当日に見た、鳩が大鷹によって襲撃された様子

◆ 振り返り会の様子

各グループで作った宝箱を発表

→佐々木先生からの詳しい解説

子どもたちはどの宝箱にも興味津々で

佐々木先生に質問をしていた

ボランティア活動の見解

- 参加した子どもたちは、活動を通して自然と打ち解けていった
- グループによって木の実や虫など興味は様々であった

→様々な関心を引き出せる多様な環境が川崎市多摩区の森にはある

- 子どもたちが積極的に自然について関心を持ち、子どもたち同士で「みてみて」と自然物を見せ合ったり、佐々木先生が適宜解説をしたりしていた

→自然に触れることは有意義な学習の機会であり、多くの知識を身につけられる

ボランティア活動の見解

- 子どもたちを見守る保護者が、子どもたちとは違うものに興味を持つこともあった

  →発見を共有し共通の自然物に触れることで、親子で自然の面白さを知る機会となり、関心が高まる

- 「森の宝箱」という遊びの要素を取り入れた

  →子どもにとって遊びが1番の学びの機会であり「自然に触れる活動✖　遊びの要素」は楽しみながら自然との関わりを深められる方法

ボランティア活動の見解

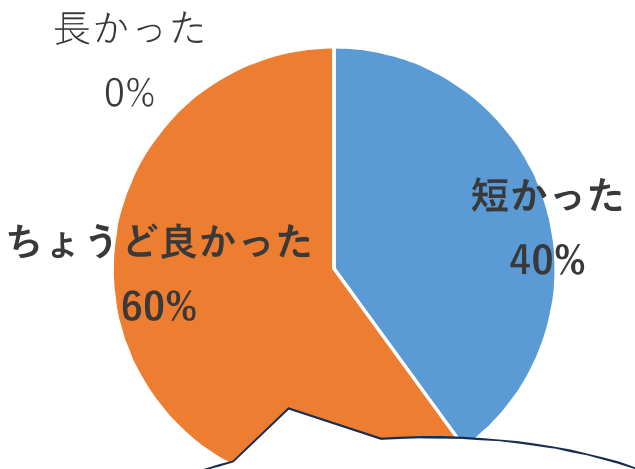
ライフスタイルの変化によって子どもの自然体験が減少している現状

→ 川崎市という都市部での自然体験は貴重なものであり、

当活動の意義と言えるのではないか

参加者の声（回答：5組）

①活動時間について



・午前中の活動は、子どもにとって生活リズムを整えるにも良い

・もっと長く歩きたかった

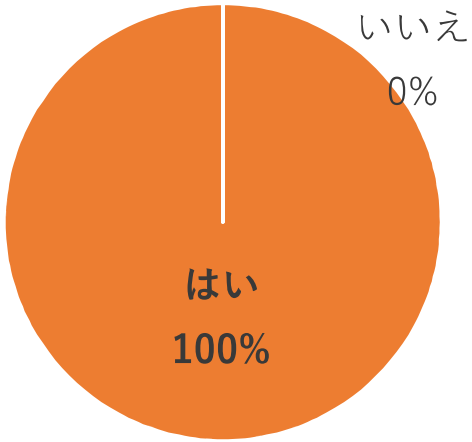
②印象に残ったこと

・身近にたくさん自然があることを知った

・虫をたくさん見られたこと

・スズメバチ、女王蜂の行動が見られたこと

③今後もこの活動に参加したいか？



反省・課題

トレイルカメラとは、動物を感知して自動で撮影するカメラ。
実際に何匹ものたぬきを確認できた。確認の時間のドキドキをみんなと共有したかった！

- 事前に学んだ知識を子どもたちに伝えるタイミングを逃すことがあった
- トレイルカメラの記録を参加者の方にお見せできなかった

〈解決策〉

→活動時間を今回より長く設け、散策のペースに余裕を持たせることで、知識を伝えたり記録を見せたりする時間も作る

→ポイントになる場所や簡単な知識を書いた地図を作成し、配布することで機会を逃さず知識を伝えられる

総括

- 現代の子どもの自然体験の重要性
- 都市部でありながら豊かな自然のある多摩区にある森を、

  自然体験など有意義に使用する必要性

→今後も自然豊かな多摩区の森を守り、

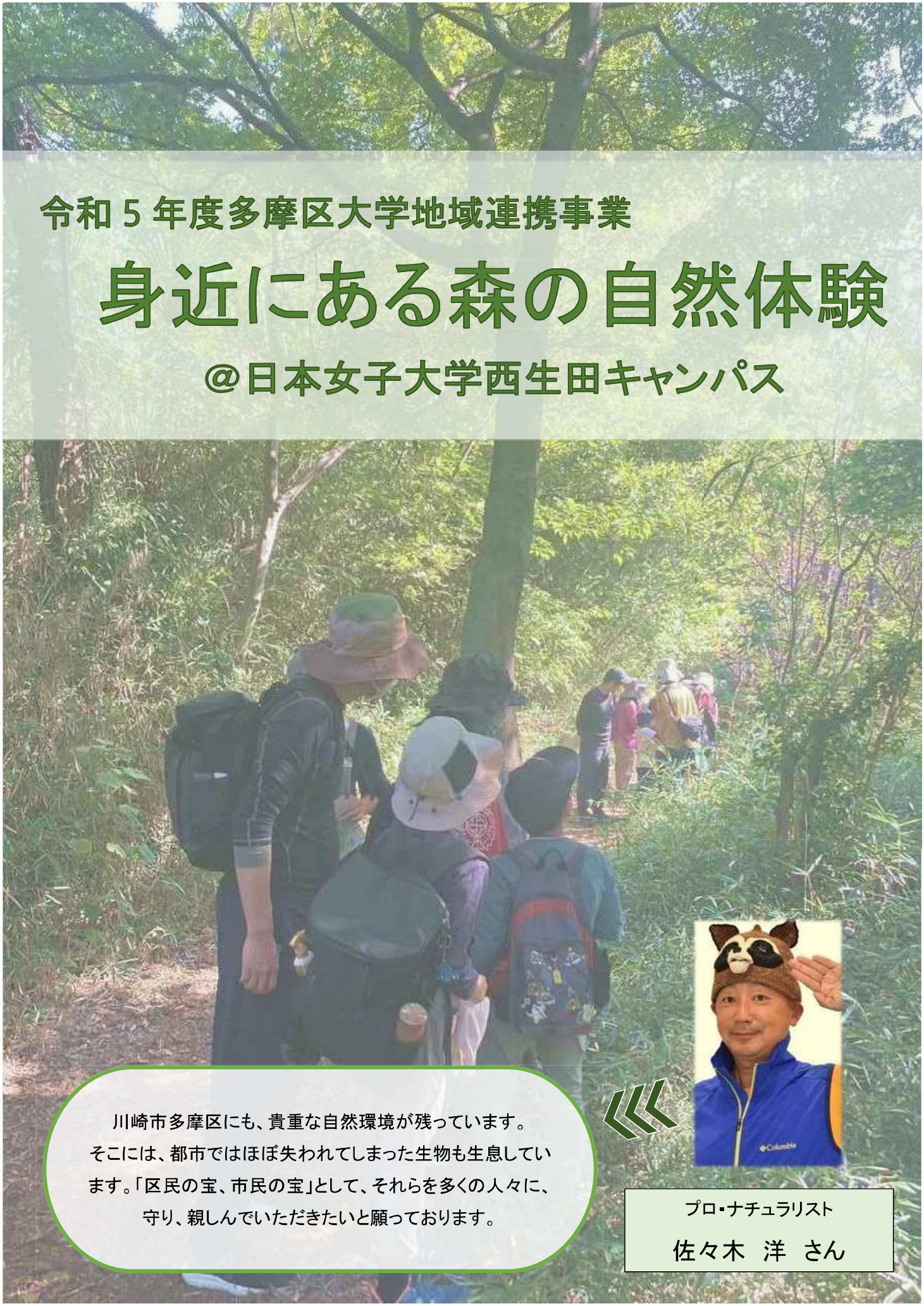
地域に開きながら活用していきたい

ご清聴
ありがとう
ございました

令和５年度多摩区大学地域連携事業

身近にある森の自然体験

＠日本女子大学西生田キャンパス



川崎市多摩区にも、貴重な自然環境が残っています。
そこには、都市ではほぼ失われてしまった生物も生息しています。「区民の宝、市民の宝」として、それらを多くの人々に、守り、親しんでいただきたいと願っております。

プロ・ナチュラリスト

佐々木　洋　さん

活動の内容（かつどう ないよう）

11月3日、多摩区の小学生と保護者の方が、日本女子大学の学生と一緒に日本女子大学・西生田キャンパス内の森を散策する活動を行いました。

プロ・ナチュラリストの佐々木洋さんを講師として招き、野鳥や昆虫・自然の不思議についての話を伺いながらグループに分かれて自由に観察しました。

森の宝箱づくり（もり たからばこ）

『森の宝箱づくり』として自然の中で気になったものや綺麗だと思ったものを 10 個集める活動をグループごとに行いました。10 個に厳選するのが大変なほどに色々なものを見つけていたようです。観察終了後に宝物を持ち寄り、発表会と佐々木さんによる解説をしていただきました。特に活動中に見つけたカラスウリを割り、真っ赤な実の中の黄色い果肉と黒い種の観察したことが印象に残りました。実際に果肉の匂いを嗅いでみたり、種を触ってみたりと盛り上がり、佐々木さんにカラスウリの種は金運が上がる縁起物として扱われているという豆知識も教えてもらいました。

この活動に参加した大学生の感想

この活動を通して、今まで知らなかった自然のことついて学ぶことができました。例えば、「蜘蛛の横糸は獲物を捕まえるために粘るけれど、蜘蛛の縦糸は蜘蛛自身が歩くために粘らない」というお話は今回の活動がなかったら分からないままだったと思います。佐々木さんから教わった知識を子どもたちに伝えると、ワクワクとした興味深そうな表情をしていました。子どもたちと一緒に私自身も活動を楽しみながらたくさんのことを知ることができました。また、佐々木さんの活動は五感をフル活用したものが多かったです。植物の匂いや触り心地を実際に体感することで、より印象に残りやすいものになったのだと思います。今回の活動で感じたことを活かし、今後子どもと関わる際には、五感を使った活動を取り入れていきたいと思います。